

碧水園能

喜多流公演

能
夕^{ゆう}
顔^{がお}
佐々木多門

狂言
清^し
水^{みず}
石田幸雄

令和2年2月9日(日)開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

白石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂
主催 碧水園能に親しむ会実行委員会
後援 白石市、白石市教育委員会

(公)白石市文化体育振興財団
白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇三三四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町二丁目二番三三号
入場料

正面補助席、脇正面指定席 6,000円
正面席 6,500円
脇正面補助席 5,500円
自由席 5,000円
学生席 3,500円
(中学生以下無料、先着10名)

チケット取扱所

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※令和元年12月6日(金) 午前8時30分発売開始

電話受付 午前9時開始

〔写真〕佐々木宗生所演

碧水園能 喜多流公演 番組

解説 佐藤寛泰

開演 一・三〇

仕舞 賀茂 塩津圭介

地謡 佐藤陽
内田成信
金子敬一郎
大島輝久

一・五五

狂言 清水 主人 石田幸雄

太郎冠者 破石晋照

後見 破石澄元

休憩十分

二・三〇

能 夕顔 後シテ・夕顔の霊 前シテ・女 佐々木多門

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 森澤勇司

笛 成田寛人

間狂言・五條辺の者 深田博治

後見 塩津哲生
栗谷浩之

地謡 佐藤陽
友枝真也
金子敬一郎
大島輝久
友枝雄人
佐藤寛泰
狩野了一
内田成信

終演予定 四・〇〇頃

狂言 清水(しみず)

茶会を開く事になった主人は、太郎冠者に秘蔵の手桶を持たせ、野中の清水へ水を汲みに行くよう言いつける。水汲に行きたくない太郎冠者は一計を案じ、手桶を隠すと屋敷へ戻り、大騒ぎで「清水に鬼が出たので手桶を投げつけ逃げ帰った」と報告する。すると、主人は手桶を惜しがり、自ら取り返しに行くと言ふ。太郎冠者は先回りして待っている...

「武悪(ぶあく)」の面を使い、鬼に早変わりする太郎冠者と主人の攻防が見どころです。セリフの掛け合いの妙をお楽しみ下さい。

能 夕顔(ゆうがお)

都・五條の辺りに訪れた旅僧。「山の端の心も知らず行く月は上の空にて影や絶えなむ」と詠じつつ現れた女と出会う。ここに光源氏と夕顔との所縁の場所であると教え、女はその恋の悲劇を語りいつしか消えてしまふ。

僧の甲いにひかれて夕顔の霊が姿を現し、光源氏との昔を偲んで舞ううちに、やがて法華経の功德によって成仏し、夜明けの光とともに姿が見えなくなるのであった。

「源氏物語」夕顔の巻より題材をとった名曲です。

光源氏が愛した、美しくも儂い運命の女性「夕顔」。旅僧の前に夕顔の霊が甲いを求めて現れ、昔語りをして舞を舞います。

幽玄なる能を目標した世阿弥の作。静謐で濃密な雰囲気、本三番目物(ほんさんばんめもの)といわれる曲趣。令和と改まった碧水園能の初会にふさわしく、演者と観る側とが一体となる舞台空間で、これこそ能という世界が展開します。

石田幸雄(和泉流狂言方)

一九四九年生。野村万作に師事。万作一門の重鎮として活躍し、二〇〇六年芸術祭大賞受賞。二〇一一年親世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。

佐々木多門

一九七二年生。喜多流職分。佐々木宗生職分の長男。塩津哲生職分に師事。喜多流の伝統が続く白石の地。平成八年より碧水園の公演を勤めている。能楽協会会員。「樺ノ会」同人。

会場のご案内

白石市古典芸能伝承の館 碧水園
〒989-0248 宮城県白石市南町2丁目1番13号
電話/FAX/0224-25-7949

2月9日(日) 茶室にて 碧水園茶会 開催
10:00~15:00(14:30受付終了)
裏千家席 1席 700円